



シュークリームから学んだ工場長の教え

ルハグワドルジ ナンディンエルデネ
LKHAGVADORJ NANDIN-ERDENE

大学生だった7年前の夏、授業のひとつとして日本の工場で2ヶ月間働きました。日本語学科だった私は、日本に来る事が出来、うれしいと共に少しくわついた気持ちになっていました。私の仕事は、アイスクリームの容器を検査し、合格した物を段ボール箱に入れ梱包し、最後にバーコードを貼り倉庫へ運ぶ事でした。3週間たった日の朝礼で工場長が「最近、バーコードが貼られていない段ボール箱が倉庫に置いてあります。皆さん注意してください」と言われました。私は、バーコードを貼って、倉庫に運ぶ前にも確認していたので、他の人の事なのだと気にしていませんでした。

ある日の定時後に私は工場長の部屋に呼ばれました。「あなたは、バーコードを貼らずに倉庫に運んでいました」と言われたので、「私ではありません。ちゃんと貼って見えています」と言うとう工場長は、無言になって製品の品質確認用に録画しているビデオを私に見せました。すると私は、段ボール箱にバーコードを貼らず、確認もしないで倉庫に運んでいました。この時は一箱バーコードを貼り忘れたかなと思ったけど、いつも必ず貼っているから大丈夫だと確認しなかった事を思い出しました。私はとても恥ずかしくなり、何も言わずに部屋から飛び出して気がついたら寮の部屋に戻っていました。暗い気持ちになり、横になっていたらドアをノックする音がしました。ドアを開けたら工場長が立っていました。注意されるのかなと思ってい

たら、「これを食べてくださいね」と紙袋を渡してくれました。仕事のルールを守らず、お詫びもしなかった私の事を心配して来てくれたと思うと目から涙がこぼれ「ごめんなさい」としか言えませんでした。工場長は、「よいですよ。これからも頑張ってください」と言い帰って行きました。少し安心した私は、おなかが減っていた事に気付き袋を開けるとシュークリームが入っていました。一口食べた私は、こんなにおいしい物が世の中にあるんだと思ったら暗い気持は全部消えました。

このシュークリームは、作る人が決められた工程で材料を混ぜ、焼き上げたものです。こんなにおいしい物を食べた人は、うれしい気持ちになります。それに比べ、今の私は必ずバーコードを貼り確認するから、「いつも確認しているから大丈夫だろう」と注意不足になっていました。こんな私に工場長は叱らずにおいしいシュークリームを与えてくれ、これを食べた私に自分の仕事を正しくやりなさいと教えたかった、と思うと再び涙がこぼれました。この時、私はシュークリーム食べた時のように皆に喜んでもらえるように一生懸命仕事をしよう、と決しました。

今の私は人を思いやる心と、人と人との出会いに感謝しながら技能実習に取り組んでいます。後輩達にも7年前のシュークリームの事を思い出し、叱らずに自分自身が間違いに気付くように接しています。